

研究成果報告書

(公財)スガウエザリング技術振興財団 研究助成事業

平成28年度研究助成(第35回)

1. 研究課題 2016年度 ISO/TC107日本開催
2. 研究者所属・氏名 物質・材料研究機構・黒田聖治
3. 研究期間 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで
4. 研究成果の概要

(和文)

会期：2017年1月16日(月)～1月20日(金)

会場：柏の葉カンファレンスセンター(千葉県柏市若柴178-4)

ISO/TC107(金属及び無機質被膜)は、金属及び無機質被膜における技術の国際標準化を促進し、その基準による貿易を通じて産業及び市場の活性化に資することを目的としている。また、ヨーロッパとアジアの持ち回りにより、毎年総会を開催しており、日本では、2011年大阪で開催している。

2016年度のISO/TC107第29回総会およびSCの会議では、2016年の活動報告とともに予定していた案件を審議した。また、本総会の日本開催にあたり、目的としていた事項に対して下記の成果を得ることができた。

- ①WG1(溶射)では、TBCを含む溶射被膜に関する日本提案を推進した。
- ②DLC分野では、日本とドイツで共同提案を行った。さらに、日本から新WG"Carbon Based Films"を提案した。
- ③SC7(被膜の腐食試験)では、多くの既ISのSR後整理の報告、韓国からの新提案議論など日本の幹事国としての業務の確立を図った。
- ④WG2ほうろう、SC8化成処理、SC3めっき、SC4溶融めっきなどでは、既企画の見直しや今後の計画などについて審議した。

また、中国より新設SC9として"PVD coatings"の提案があり、CIB投票とすることとなった。

なお、登録者数は6か国(日本を含む)、80名(海外から23名)であった。国内からも多数の出席者があり、国際標準化の重要性を周知することができた。

次回は、2018年1月23日～26日にFINLANDにて開催予定である。

(英文)

29th Plenary meeting, and SC meetings of TC107 were successfully held as scheduled from January 16 to 20, 2017 at Kashiwanoha Conference Center in the suburbs of Tokyo downtown. The achievements were noted specifically as followings: ① In WG1 for thermal spray, a new TBC film was proposed from Japan. ②The formation of new WG for Carbon Based Films was proposed by Japan and Germany with an additional new work item for DLC film. Japan candidates the convener of the WG. ③Japan has taken charge of the secretariat of SC7 for rearranging many established IS among the related TCs. ④In SC3(Electrodeposition), SC4(Galvanization), SC8(Conversion treatment)and WG2(Porcelain & Enamels), reviews of many IS and future plans were discussed eagerly. Finally, the formation of a new SC9 (PVD coatings) were proposed by China to initiate CIB voting from now. Registrants were about 80 from six countries with so many domestic attendees together. These showed the significance of international standardization to the related world. The next meeting will be held January 23 to 26, 2018 in Finland.